

141  
2  
199

東 京 圖 書 館

一 九 二	六 九	三 三	釋 書 類	和 書 門
冊	號	架	函	類

故園知院日性編輯  
祖書拾遺和語記

下

祖書拾遺和語記目錄下

祈禱抄

崇峻天皇御書

中務三郎左衛門尉殿

千日尼御書

光日房御書

持法華問抄

秋元御書

初心成佛抄

南條兵衛七郎殿

阿彌堂法印祈雨事

龍口御消息

善無畏三藏御書

問註抄

阿佛房御消息

初葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

同葉ヲ

冥權出界抄	十七葉
妙法尼御前御書	同葉
上野殿御書	同葉
藥王品得意抄	同葉
南條殿御返事	同葉
大聖御書	同葉
王舍城事	二十一葉
新池抄	同葉
大田殿女房御返事	二十二葉
即身成佛事	同葉
中務左衛門尉御消息	同葉
伊豆勘氣事	同葉
聖密房御書	同葉
龍口御消息	二十三葉

祖書拾遺和語記下

- 祈禱抄奥
  - 一 彼時ハ世ハアカリタリシカニ
  - 如上上代ノ事也
- 崇峻天皇御書
  - 一 且シテウツテ御覽アレ
  - 如上念シテノ事也
- 中務三郎左衛門尉殿
  - 一 調伏セン時遠テナンハンは也
- 被襲是也ト云本モ有
- 千日尼御前御書
  - 一 日蓮ハ日本第一ノエセ物也
- 葵卷口何トモ見イレ給フマシキモセズリヤウノムスメ云云エセト
- ハ世話云ナマシイノ心也ズリヤウハ受領ノ事諸國ノ名ヲ給ハル
- 或ハ守或ハ介或ハ様次第アリ
- 一身命ヲ續ヘキ方モナシ身ヲ陰スヘキ藤ノ衣モモクス

古今 穂モ出ヌ山田ヲモルト藤衣イナハノ露ユスレヌ日ツナキ 讀人不知

風雅 大君ノ鹽ヤツアマノ藤衣ナレハスレヒイヤメツラシモ 同

是ハ 皆賤人ノキタル衣布衣ノ事也 讀人不知

拾遺 藤衣ハツル、イトハワヒ人ノ涙ノ玉ノチトツナリスル 同

古今 思ドナヒトリ、ガ懸シナバ誰コロソヘテ藤衣キノ 同

是ハ人コチツレデキルイロナトイフ衣ノ事也 雪ノ事上ニ委シ

一野中ニ拾ラレテ雪ニ腐チマシヘ菓チツミテ命ヲサヘタリ 俊成卿

玉葉 薪トリ嶺ノ木ノミチ求メテツアエガタキ法ハキ、ハジメケル

○光日房御書 一仲丸ガ日本國之朝ノ使コモロコシニ渡テ〇

古今ニ 安倍仲麻呂モロコシヨテ月ヲミテヨミケル アマノハラフリサケミレハカスガナルミカサノ山ニ出シ月カモ

コノウタハムカシナカマロチモロコシ物ナラハシユツカハシタ

リケルニアマタノ年ヲ越テカヘマウデコザリケルヲコノ國ヨリ

又ツカヒマカリイタリケルユタグヒテマウデキノントテ出タリケ

ルニメメジツトイフ所ノウミベニテカノシユノ人ムマノハナムケ

シケリヨルコナリテ月ノイトオモシロクサレ出タリケルヲ見テ

メルトナシカタリツタフル 一申モアヘズ 不取 敢取果也 然ハ申ハタサズノ心ナリ 歌林頁

材コハアヘスチトリアヘスノ心也ト書ケリ 古今 チハヤフル神ノイガキコハフ萬モ秋ニハアヘスウツロヒニケリ 貫之

同 秋カゼニアヘズ散ヌル紅葉ハノ行エサタメヌ我アカナシキ 同

一大海ノ底ノチビキノ石ハ深トモ

神代伊弉諾尊已至泉津平坂故便以千人所引磐一塞其坂路

万葉 ミナノクノチビキノ石ト我戀トコナハリアフコ中ヤ絶ナン

一山鳥ノ頭ヲノ毛白ク成ニケリ

燕ノ太子丹ガ故事如常 後拾遺 山鳥頭モ白ク成ニケリ我婦ルヘキ時ヤキヌラン 増基法師

千載ニ 女チカケラヒ侍ケルタイカニ有マシキ事ナリオモヒタヘテ

トイヒ侍ケレバ讀ル

安性法師

一吹風立雲マデモ東ノ方ト申セハ庵チ出テ身ニ觸レ庭ニ立テ見ル也

新古今 袖コフケサアテ旅チノ夢モミシ思方ヨリカコフ浦風

同 故郷モ秋ハ夕チ形見トテ風ノミチクルチノ、シノハフ 天夫俊成

同 故郷ノ旅チノ夢ロミヘツルハ恨ヤスラン又トトハチハ 觸良利

後拾遺 思フ人有トナゲレト故郷ハシカスカコソ戀カケレ 能因法師

言書 言レカスカノ渡ニテニ侍ト有三河國ノ名處也吹ノ此言ハナ

スガト云事也

新古今 白雲ノイクヘノ峰チ越スラン願スアテレニ袖チ任テ 源家長

三昧詩ノ註ニ唐ノ狄仁傑見白雲孤飛一日吾親舍其下唐楚國ノ竹チチ

コキテ吳國ニウヘケレハ其竹楚國ニ向テオヒ枝葉彼國ニムカヒ

レタリ又終夜竹ニ悲泣ノコヘアリトナン東ノ事ハ人王十二代景行

天皇ノ御宇ヨリ起レ具ニ神代註ニアリ長ケレハ略之又源順カ

和名ニハ文選チ引テ邊鄙ノ二字チアヅマトニ有然バアナガチ

東方ニ限ラズ邊土ハ皆アツマ也然ハ大方ハ關東チ指テ云也其上和

安性法師

天夫俊成

觸良利

能因法師

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

源家長

國ニテハ神道歌道カ本コテ候程ニ東チ指テ云ガニク候

一故郷ノ人ハ設心ヨセロオモハヌ物ナレハ我國ノ人ト云ヘハナツカ

シク侍ル

桐壺卷ニ一ノモコハ右大臣ノ女御ノ御ハラニテニセチモクウカガ

ヒナキマウケノキミト世ニモカセツキ聞ユレト有ニセトハ縁者餘

情ニ心有今ハ縁者ノ事チ被遊カ

一此御文チ給テ心モアラスシタイソキ引ヒラキテ見候

箒木卷コナカキミヅヤナル色々ノカミナルフミドモナヒキイデハ

ト有兼好モ此比アル人ノ文ダニ久シク成タイカナルオリイツノ年

ナリケント思フハ哀ナルアカシト書タリ

一ウラシマカ子ノ箱ナレヤアケテクヤシキ物哉夕霧卷ニ御ハカシニ

ソヘテ經バコサツヘタルガ御カタハラモハナレチバ

哥 戀シサノナクサメガタキカタミニテ泪コクモル玉ノハコ哉

クロキモマダシアヘサセタマハズカノ手ナラシ給ヘシラテソ

箱ナリケリズ經コセサセ給シチカタミコトトメ給ヘルナリクウ

ラ島ノコガコ、ナナント有私ニ云シロキトハ服者着物ソイミノ時  
ノ事也浦島ガ子ノ事歌ロモ多クユム也日本紀ニハ雄略天皇廿二年  
秋七月ノ事見タリ委ハ歌林良材ニ有  
後撰雜 アケテダコナロ、カハセン水江ノウラ島ノ子ヲ思ヒヤリツ、 中務

一 我ノ國ノ事ハウクツラツアリン人ノ末マデモ思ナラズ  
新古今 人ヅウキ頼メス月ヘナグリキテ昔忘ヌモギフノ宿 秀能

新古今 ツラキタモ恨ヌ我ヲ習ナユウキ身ヲ知ヌ人モコソアレ  
哀ナリウキモツラキモ知ナカラタヘ忍ケン人ノ心ヲ  
如上 小侍從

一 カタナロモナシト見セカ  
一 ミヤツカイ  
左傳ニ官禮記ニハ宮學ト書テミヤツカヘ物マテヒストユメリ女  
御更衣モ始ハ宮ツカヘ也後ニ女御更衣ニ昇リ玉フ也桐壺卷ニハシ  
メヨリテシナベテノウヘ宮ツカヘ給ベキキハコハアラサリキ同  
卷ニタ、此人ノ宮ツカヘノホヒカナラズトケキセタマツリ同卷  
ニ故大納言ノユイエンアヤマタズ宮ツカヘノホヒフカクモノシヨリ

一世間ハ無常也イツト申事ラシラズ  
新古今 ヨモギフコイツカオクベキ露ノ身ハ今日ノ夕暮アスノ曉  
同 ツク〜ト思ヘハ悲シイッマデカ人ノ哀ヲモシコ聞ベキ 入道左大臣  
同 アルハナクナキハ數ソフ世中哀イヅレノ日マデ歎カン 小野小町  
同 イヅレノ日イヅレノ山ノ麓ニ結テ煙ト成ントスラン 選子内親王  
古今 終ニ行道トハ兼テ知ナガラ昨日今日トハ思ハサリシヲ 業平  
新古今 レイナラヌ事侍ケルコヒシリノトアラヒコマウデキテ侍リ  
ケレバ

定メナキ昔カダリチカソフレハ我身モ數コ入ヌヘキ哉 大僧正行導  
一 ヤモメヲテ 侯母チサシチキテ前ニ立候ハノ事コソ不孝ニ覺ヘ候  
伊勢物語 ヲムカシオトコヤモメヲイテト云文章有  
古今 甲斐國ニアヒシリテ侍ケル人トアラハントタマカリケル道  
中ニテニハカニヤマヒキシタイマ〜トナリコケレハロミテ  
京ニモテマカリテ母ニミセヨトイヒテ人コツケ侍ケル歌  
カリソメノ行カヒキトツ思ヒコシ今ハカギリノカドテ成ケリ 在原滋春

新古今

ワツラヒケル人ノカシ申侍ケル

返

ナガラヘントモ思ハヌ露ノ身ノサスカ消事ヲコソ思ヘ

讀人不知

新古今

スエノ露モトノ卑ヤ世中ノオシレ先ダツタメシナルラン

小馬命婦

孝

經ニ率莫大於三不孝註ニ孝者人高行ナリ後漢書孝百行之本業善之

始也

爾雅善事ニ父母曰孝私曰一世ノ孝サヘ如此况三德有緣久遠

八

己來御慈悲垂玉フ釋尊上行ノ御恩何ゾ可忘淺聞シクワスル

一人

人間ニ生テウケタル人上下コツケテ患ヘナキ人ハ無ケレトモ

金葉

身ノウサチ思ヒシトケハ冬夜モトコホラスハ涙ナリケリ

讀人不知

新古今

ナカラヘハ又此比ヤシノハレシウシト見世今ハ戀シキ

清輔朝臣

拾遺

カシハカリヘカクシ見ユル世中ニ浦山シノモスメル月カナ

高光少將

自贊哥

世間ヲ渡リクヲベテ今ツシル阿波ノナルトハ波風モナシ

兼好法師

金葉

山里モウキモノ中ヲハナレテハ谷ノ鶯音ヲノミソナク

攝政左大臣

一人

人々ニ隨テナケキシナク也

天上ニハ五衰トテ品々有人間ハ八苦トテ八ノ品分レリ人々ノ指當

ル苦モ品々也箒木卷ニ中將マナトリテコノシナクテワキマヘサタ

メアラソソウイトキ、コクキコトオホカリ虫ノ類ヒサヘ其品々アリ

トツ

詞花 ナク虫ノヒトツ聲ニモキコヘスハ心々ニ物ヤカナシキ 和泉式部

物ノ人ノ心品々ナレハ好所モマナク也去レハ花ヲ愛シ月ノメテ春

ノ曙秋ノ夕チアラソヘルマテ皆一方ナラス彼唐ノミカドノ紫チ好

ニ此日本ノ大君ノ黄ナル色チスカヒ給ヒアマキチアギハヒコガキ

チナメシモ心々ノカハレルニヤイキトシイケル物何モ食事ニヨリ

テ命ヲツラヌル品々也内ニモ蛙ノ子ノ母ノ鳴聲ヲ聞テ生長スルト

カヤ好ノ品々有ハ苦又シナク有ベキ事ソ

一親子ノ別ニソ月日チヘダツルマニ彌歎キ深カリヌベシ見ヘ候

物ノ○親子深ケレバ彌深カレヘキ事也

新古今 ワカレコシ其面影ノ戀シキニ夢ニモ見ヘ山ノ端ノ月 寂蓮法師

新古今 桐葉ニソノイフカヒハナケレトモ神カミコ心ココロチカケスマソナキ 法印成清

同 オシナヘテ日ヒ吉ヨシノカゲハクモラスニ涙ナミダアヤシキ昨日キノ今日ケ哉 大僧正慈圓

新古今 ムクヒアル身ミミチバシラスヤウキコトノ還ノボリスマニ世ヨチ恨ウラミミツ、 藤原盛能

後撰 ナニコトチ今イマハ頼タカマンナハヤフル神カミモダスケヌ我身ワガミ也ナリケリ 平定文

世話セワニ神カミモ佛ホトケモマシマサスカヤウラメシノ浮世ウキヨヤアラウラメシノ 浮世哉

一何イカナレハ親オヤニ子コチカヘサセ給タマヒテ先サキニハ立タテサセ給タマフ

詞花 大江オホエ舉ト周シユ朝アソ臣シオモシワツラヒテカキリコ見ミヘ侍サマリケレハ 赤染衛門

一二月十五日佛ホトケノ御入滅ミコトノニワセノ日ヒニアタリテ

絹キヌ更マシ月ツキ 春ハル介ケ 衣キ更マシ若ニギ 梅ウメ律リツ 佐サ月ツキ申マウ也ナリ

續古今 願ネガハ花ハナノ下シタニ春ハルニナシ其ソノモナ月ツキノキサラキノ比ヒ

哀アハレシレ軒端ノキダニスクフツハクラメ立タツ如月ニギハヤヒノルシトテヤハ 藤原興風

驚オドロノガヨハス里サトノ宿ヤドモアラシ花ハナサカリナル梅ウメツサ月ツキハ 友則

二月御入滅ニワセト云イフモ又佛ホトケヲシヤウモ佛家ブツケノアヤマリト備ツク者モノカラ破ヤ

スル也名義集ナミギノミツニアリ常ツネニ可ベキ心得ココロウケ事コト也ナリ

一山高ヤマタカコト天テンコツキサカシキ事コト飛トビ鳥トリモトヒカケシ

集解等シユゲニ天梯山テンヂノ釋シヤクノエトシ詩シニ鳥トリ不ズ鳴ナク山ヤマ更マシ幽ユウ

新古今 鳥トリノチモキコヘヌ山ヤマニキタレトモ異イコトノ道ミチハ猶ナホ遠トホキ哉ナリ 藤原仲實朝臣

一冬フユハ雪ユキ深フカク夏ナツハ草クサ茂シゲリ 讀人不知

古今 古里コサトハ吉野ヨシノノ山ヤマ近チカケレバヒトヒモミ雪ユキフラス日ヒハナシ

新古今 夜深ヨシ聞ク雪ユキトイフ事コトチ 刑部卿範兼

後拾遺ノチヒ 夏草ナツクサハムスナハカリニ成ナリニケリ野ノガヒシ駒ウマヤアツカレヌラン 源重之

一問人トクヒト稀ヒナレハ道ミチチフミワクルコトカタシ雪ユキ深フカクシテ問トコトナレ 皇后宮紀後

金葉 道ミチモナクツモレル雪ユキニ跡アトタヘテ故郷コトウチイカコサヒレカルラン 讀人不知

古今 我宿ワガヤドハ雪ユキフリシキテ道ミチモナシフミ分ワケテ問トフ人ヒトシナケレハ 窮恒

○持法華問答抄

一月卿



左右ノ大臣ナドノ御子ヲ云也公卿モ同シ源氏ニハカンタナメトカケリ  
一雲客

參議ヨリ下ノ人也故源氏ニハウヘ人トカケリ桐壺卷ニカシタナリ  
ウヘ人ナドモアイナクメチソバメツ、イトマハユキ人ノ御覺ナリ  
トカケリ下學集ニハ月卿雲客三位以上ヲ月卿ト云公卿也四位以下  
ヲ雲客ト云殿上人也又夕郎ト云ト書リ

一教文ノセツタイ

料理 梶 餅 帚木卷ニシテ殿ノヒンカシラモテハラヒアケサセ

一有爲ノ凡庸ニ無爲ノ聖衣ヲ着スレハ三途ニ無恐入難コハ、カリナシ

抑衣領樹ト申侍ノ木ハ迷途ニ行道ノ三瀬河ノ間ニ有此木ノ陰ニ奉

衣姫鬼幸衣姫鬼トテ二人鬼神有其形鬼女ニ似タレハ世ニ人ノ三途

河ノウバト云也人間此世ノ命ツキカレニ趣ク時河ヲ渡ル迄ハ裝

裝ノ衣、裝ヲキレトモ渡リハツレハ奪衣翁鬼其キレ物ヲウバヒ幸衣

翁鬼是ヲ取衣領樹ニカケケレハイカナル女御更衣モ本ヨリ其下サ

マシツ山ガツモ皆赤ハタガコテ閻魔法王五道冥官ノ列座ノ前ヲト

タルハナカマシキコト言モ心モオホハレヌ菅原道雄女

拾遺 三瀬河ヲタルミサホモナカリケリナコ、衣ヲスキテカシラン

ト云メル此心也此耻ヲハ何チモテカカスヘキト云ハ法華經ヲ信ス

ル者ヲ如裸者得衣ト説五ツサレハ高祖ノ有爲ノ凡庸ニハ難コハ、

カリナシト評シ給ヘリ此世ニチ男女ノ妄執ノ愛念盡ザル物彼三途

河ニテ河ノ向ニ其面影見ヘシ程ニ妄執ノ盡スル處ニヒカレテ心ヲ

クダキ身ヲシルシメテ渡リテ見レハ其人ハナン跡ヲカヘリ見レハ

又コシカクニ其人見ユ故コソタリ飯レハ又向ニ有カヤウニ幾千万

渡ト云事ヲシラズ其河ノ中ニハ毒蛇毒虫有リ身ヲ食サキ皮ヲ切テ

骨ヲヤフリ腦ヲクダク云盡シガタシ十如是ノ中ニ習果爲果報果爲

報ト云コ當ル歟定家卿

拾遺員 セメテ思フ今一ツヒノ逢事ハ渡ラン河ヤ契リナラマシ

ト云メル此心歟淺間敷カケル業因哉可恐可恐後京極攝政太政大

臣ノ歌

續後拾遺 過水ケル世々ニヤ罪ヲ重テケンムク悲シキ昨日今日哉  
 一其里ユカシケレド道ヲへ縁ナキヨハ通心モオロソカニ  
 一其人戀シケレド憑メス契ヲスハ待思モナチサリナル  
 三體詩ニ瀟湘何事等閑回

古今 唐モ夢ニ見シカハ近カリキ思ハス中ソハルケカリケル  
 後撰 ナチサリコオリツル物ヲ梅花コキ香コ我ヤ衣染テソ  
 一袂ヲクメン 腐 蕊  
 閑院左大臣 兼藤法師

千載 引カケテ泪ヲ人コソ、ムマコウラヤ朽ナン夜半ノ衣ハ  
 同 シハコソスル、袂モシホリシカ涙コ今ハマカセテソミル  
 千載 戀々テ逢ウレシサツ、ムヘキ袖ハ泪コ朽ハテコケリ  
 一胸ヲコカス歎キ 焯  
 藤原清輔朝臣 藤原公衡朝臣

詞花 ムチハフソ袖ハ清見ガ關ナレヤ煙モ波モ立ヌ日ゾナキ  
 續後撰 佗人ノ心ノ内ヲツラフルコ富士ノ山トヤ下ニカレケル  
 續後拾遺 片戀ヲスルガノ富士ノ山ヨリモ我胸ノヒノ先モモユルカ  
 一暮行空ノ雲ノ色  
 平拾峰 忠峰 紀友則

新古今 後朱雀院カッレ給テ後源三位ガモトコソツカハシケル  
 弁乳母

金葉 アハレ君バカナル野邊ノ煙コテ空キ天ノ雲ト成ケル  
 定メナキ世テ浮雲ソ哀ナルタノミ君カ煙トオモヘバ  
 藤原實陰

一有明方ノ月ノ光マテモ心ヲ催ス思也  
 十五日以後ハ有明ナルベシ匡房ガ續日本記十五日以後ハ晨月ト号  
 有

新千載 久カタノ空ノイツクノ影ナラテ木ノ間明行ミシカ夜ノ月  
 伏見院

白川殿 ミシカヨノアマノ水ニ影スミテアシル程ナキ夏ノ月  
 具氏朝臣

一華ノ春  
 新古今 憂世哉吉野ノ花ニ春ノ風時雨ル、空ニ有明ノ月  
 慈嶽

同 櫻ナル春ノ山邊ハウカリケル世ヲ遁テト越カヒモナク  
 惠慶法師

同 春雨ノソホフル空ノチヤミセスオツル涙ニ花ソチケル  
 源重之

同 雲林院櫻見ニマカリケルニ皆散ハテ、ワツカニ片枝ニノコ  
 リテ侍リケレバヨメル

尋ソル花モ我身モオトロヘテ後ノ春トモエコソ契ラテ  
 良瀧法師

此歌ヲ吟詠シ猶フ思イダサル予七十ハカコアマリ世ヲ通レツ  
ル身ノ幸讀經ノミコソハケムベキコカ、ル手号コソアヘナキ事ト  
思ヒ待レド又祖師ノ御恩ノ難報事ヲ思ヒテ涙ヲ硯コタメテカキ侍  
ルニヤ阿佛カカケル 誦誦ニモ風ニ散敷花ニサダメナキ世ヲトヘ  
一雪ノ朝 定家卿ノユメ也

新古今 雪ノアシタ基俊ガモトヘ申ツカハシ侍ケル

常ヨリモシノヤノ軒ツウツモル、ケフハ都ニ初雪ヤフル 藤原上人

返シ 降雪ニマコトコソノヤイカナランケフハ都ニ跡ダロモナシ 藤原基俊

初ノ歌ハ初雪朝チロメリ返シハツモルマテモアラテ早クキヘ侍ト

也寔ニ是面ノ無常ヲ被遊ニ叶ヘル也

新古今 春日野ノ下モヘワタル草ノ上ニツレナクミユル春ノ淡雪 權中納言國信

一風サワキ村雲迷フ夕ヘ 風ニ戰

野分ノ風サワギ村雲マコフ夕ヘニモリスル、マナクワストラレヌ君

一出息ハ入イキチマタス

出息イロチマツマモカタキ世ヲ思ヒ知レルソ袖ハイカコト 新院 御製

經釋ニ出タル分ハ不及ニ

一昨日今日ニナリ去年カ今年ニナリ

古今 昨日トイヒ今日ト暮テアスカ河流レテハヤキ月日ナリケリ 春道列樹

續古今 イカバカリ年ノ通路チカケレバ一夜ノ程ニユキカヘルラン 藤原清輔朝臣

一志ノ程無下ニアヘナシ

無下ハ無上ノウラ也無敢ハ敢勻會進也勇也箒木卷ニアマリムケコ

ウチニユルヘミハナチタルモ心ヤスシト有無敢トハ或ハ益モナシト

云心或ハ頼ミナシト云心或ハ由ナキト云心或ハカヒナキト云心色

々ニ用也以心可知桐葉卷ニアヘナクテカヘリヌ

拾遺 身ニカヘテアヤナク花チオシム哉イケラバ後ノ春モコソアレ 藤原長能

一色ナキ人ノ袂ニハスソロニ月ノヤトル事カハ 坐ス、ロ 同事也

古今 紅ノフリ出ツ、ナク涙ニハ袂ノミコソ色マサリケレ、 貫之

新古今 明石ガタ色ナキ人ノ袖チ見ヨスソロニ月モヤトル物カハ 藤原秀能

續千載 涙ソフ袖ノ凄チタヨリニテ月モウキチノ影ヤトシケリ 津守國助

袂ノ色袖ノ色ハ涙ノ事紅ノ涙ト有バ猶々尤歎

詞花

紅ニ涙ノ色モ成ニケリカハルハ人ノ心ノミカハ  
紅葉ハノ色ニオトラズフル物ハ物思フ袖ノ泪也ケリ

源雅光

是ハ亭子院ノ御歌ト申傳

一世間ノ無常ヲサトラン事○雲トヤ成ケン雨トヤ成ケン

阿佛ガ願フ語コ一時ノケフリトノホシ後雨トヤ成ケン雲トヤ成ケン

ツククト大空ヲカコテドモカユウマホロンノ言傳モナケレバ玉ノ

アリカチソコトタコシラズト書文ニ選ニ且爲ニ行雲暮爲ニ行雨楚懷王高

唐ニアソシテヒルチシテ夢ニ巫山神女ニアツタ時ニ神女ノ如此云

語也受ニ此語劉夢得ガ詩ニ相逢相失并如夢爲雨爲雲今不知

一露トヤキエ煙トヤノホリケン

新古今 オサナキ子ノウセニケルガウヘチキタリケル菖蒲ヲ見テ

侍ケル

アヤメ草ヲ忍ベトカウヘオキテ蓬カ本ノツユトキヘケン

同 母ノ身マカリニケルサガノホトリニオサメ侍ケル夜ヨミ

木綿四手

ケル

今ハサハウキ世ノサガノ野邊ヲコソ露消ハテシ跡ト忍バメ

俊成女

一昔人ハ名ノミ聞

新古今 ミチノクニヘマカリケル道ニ目ニタツ程ノツカ侍ケルヲト

ハセケレハ實方朝臣ト申ケル折節霜ガレノス、キホノ

ヘツヨリ物カナシク侍ハユメ

朽モセヌ其名バカリチ留置テ枯野ノ薄形見ユヅミル

西行

同 モロトモコ苦ノ下ニハ朽ズシテ理モレヌ名ヲ見ヅカナシキ

和泉式部

一今ノ友モ又見ヘズ

絶句詩明年各自東西去此地看花是別人

古今 春エトニ花ノ盛ハアリナメトアヒミシ事ハ命ナリケリ

續人不知

一我イツマテカカ三笠ノ雲ト思ハキ

新後拾 ヒトスデニ世ヲ長カレト祈哉頼三笠ノ杜ノシメ繩

後西園寺入道

遺 續拾遺 クリ返シミカサノ杜ニ引シメノ長キメクミチナチ祈カナ

中臣祐賢

續千載 三笠山老木モ今ハ花咲テ代々ニカハラス春ニ逢スル

前僧正實教

三笠山ヲ三笠ノ雲ト被遊ハ雲井遙ト云心賦

風雅 三笠山雲井ハルカニコユル其如ノ月ハコノコスムカナ 春日御哥

一春ノ花ノ風ニシタカイ

絶句詩春風堪一賞 還堪恨 見開花又落華 雍陶

一秋ノ紅葉ノ時雨ニ染〇是皆ナカラヘス世中ノタメ

新古今 行秋ノ形見ナルベキ紅葉ハモアスハ時雨ト降ヤマカハン 權中納言兼宗

古今 白露モ時雨モイタシモル山ハ下葉殘ラス色付コケリ 貫之

同 白露ノ色ハヒトツタイカコシテ秋ノ木葉チチニ染ラン 敏行朝臣

新拾遺 世中チ常コトミレバ秋ノ野ノウツロヒカハル時ソワヒキ 大僧正慈鎮

〇秋元御書 又筒御器ト號ス 如光日坊御書

一入來ラヌ上雪深ク道塞テ問人モナレ

一頭ハ剃事ナケレハウツラノ如

一長髪ニチヨヤカクモアラズウツラノ尾ノ如ク也トカヤ

一鴛鴦ノ羽チ氷ノ結ベルガ如

金葉 浪枕イカコウキチチサダムラン氷マス田ノ池ノオウ鳥 前齊宮内侍

同 中々ニ霜ノウツキチカサチチモオレノ毛衣サヘ増ラン 前齊院六條

千載 カタミコヤ上毛ノ霜チ拂ラントモチノオレノモロ聲ニナク 源親房

同 オシ鳥ノウキチノ床ヤ荒ヌランツラ、サニケリヤノ池水 權中納言經房

〇初心成佛抄

一五障

句宮卷コイツ、ノナガシモナチウセロメダキヲワレコノ御心チ

チクスケテオナジウハ後ノ世チダコト思ト有

一三徒

蘭卷コ女ハ三コシタガウモノコソツアナレドツイダチタガヘテ

ノカ心コマカセン事ハ有マレキ事也ト有

一業平ガ歌ニモムグラチヒ〇云モ女人チハ鬼トニメルココソ

伊勢物語 ムタラオヒテアレタル宿ノウレタキハカリモオコノスダシ也ケリ

伊勢物語 ニムカシ心ツキテ色好ナル男ナガチカトイフ處

家ツクリテチケリソコトナリナリケル宮ハラニコトモ

ナキ女ドモノイナカ也ケレバ田カラソトテ此男ノアルチ見

タイミシノスキモノ、シワサヤトチ集リタイキケレハコ

古今

伊勢物語

ノ男ヲトココケテチクニカクレコケレハ女メ  
 アレコケリアハレイクコノ宿ナレヤズミケン人ノオトツレモセヌ  
 トイヒテ此宮ニ集アツキイテ有ケレバ此男コノヲトコ  
 ムクヲオヒテアレタル宿ノウレタキハカリモオオノスタク也ケリ  
 トテナン出イレタリケル此女コノメトモホヒロハントイヒケレバ  
 同  
 ウナツヒテオチホヒロフトキカマセハ我モ田ツラコユカマシ物ナ  
 私云書寫上人和泉式部が來ラン事ヲ兼テシリ弟子共コ明日此寺へ  
 鬼神來ルベシ心得チナセト有シカハ各其期コノソミタイカナル夜  
 亦羅刹カ來ラントオソロシク思ヒシニサハ侍ヲ和泉式部イヅミシキ翠スズ紅ベニ  
 錦ニシキヲ引ヒキ刷シテ出イテ來キタル此チナン上人兼テ鬼トノタマヘケル冥ミヤキ  
 リクヲキミチコソト讀ルハ此時ノ歌ト申侍リキ此歌全部ハ不知故  
 ニ可尋也

一ヤミノ夜ノコシキ

漢書カンシヤウニ出イタリ富貴不歸故郷如衣錦夜行ト項羽語也云心ハタトヒ身  
 ハ富貴也トモ他國ニ居テ故郷へ歸ラヌ詮モナク錦ニシキヲ衣キテ身ミカザリ

○南條兵衛七郎殿

一カク心細キ幽谷

如上

ヤミノ夜ヨニアリク如クソ此故郷コノコトヨリ故郷へハ錦ニシキヲ衣キテ飯イルト云事  
 起オレリアナカチ錦ニシキハ衣キズ用其身ノ本意ヲ遂ル事ヲ云フ松風卷マツカゼニモ  
 出イタリ

古今

見ル人モナクテナリヌルオク山ノ紅葉ハ夜ノ錦成ケリ 貫之

後撰戀

オモヘドモアヤナシトノミイハルレハヨルノ錦ノ心チコソスレ

讀人不知

伊勢物語ニウツノ山ニ至テワガイラントスルミナハイトクラウホ  
 シキコツクカヘデハゲリモノ心ホソクストロナルメテ見ル事ト

思フニ修行者アヒタリカハルミナハイカダカイマズルトイフチニ  
 レハ見ル人也ケリ京キヤウコソノ人ノ御モトトトテフミガキアツク  
 新古今  
 スルガナルウツノ山ミヤノウツウツハモ夢ユメモ人ヒトニアハヌ也ケリ

一ウツフキシモ

萬マン雞冠キヤウハ茂シゲハノ宇ウチヲコハニ可讀ヨク葉ハノ心ココロアレ

嘯嘯勻ニ吹聲也又感口而出聲又吟也又吹氣若歌易ニ虎嘯風生ト有  
私云歌ヲ吟シ詩ヲ吟ズル事ソ  
○阿彌堂法印祈雨事

一ノ、シリシカハ

一 軒筒 筒會庚勻ニ呼コソ切駭驚也起言聲也又韓文詩管然振動如雷霆

一 子細ノ有ベキツトチコツキシ程

如二月水抄

一 何ナル答ノ有ヤラシマホシキ事也

一 欲知ト雷也是ニカナチヨミ付テ云也具ニハシラマクホシキト云事也

一 續千載 イカバカリ嬉カリケンサラデタニコン世ノ事ハ知マホシサコ

皇太后宮大夫 俊成

一 頂ノ皮ノ底ニアル骨ノヒ、クウフレ也

一 假名異名ニモ未考 碑 叩 カヤウノ字ニテモ有歟

一 吹風枝チナラサス雨土クレンチウエカサス

一 天下大平ト云事也掃鐵輪云風不鳴餘雨不破塊唐ニテ昔周公且ノ時

一 天モ時代チ感シテ五風十雨トテ五日一度風長閑ニ吹テ枝互ニア

ラツヒ鳴事ナシ十日一度雨シツカコ降テ山モ不崩堤モ不破土オダ  
ヤカ也周公且ノ因縁長ケレバ略之

拾王 吹風モエダチナラサス行末ハチラヌ花チヤヤトコ詠メシ

千載 吹風モ木々ノ枝チバナラサチド山ハ久シキコヘツキコユル

拾遺 聲タカクミカサノ山ゴヨハウナルアメガシタコソタノシカルラン

拾王 吹風モ枝チナラサス行末チナラヌ花チヤ宿ニナガメン

一 弟子檀那共霜露ノ命ハ日影チ待計アカシ

夕霧卷ニイツレトカワキテナガメンキヘカヘル露モ草葉ノ上トミ

又世チ心ハキヘカヘルハ消殘リタル露也前へ消モ跡ニ殘ル一度ハ

消テ終ニハ草葉ニ不留間ワキテ可味ヤウモナシト也

新古今 未ノ露モトノ平ヤ世中ノオクレ先ダツタメシナルラン

一 無慚ト思ハンスラン ○浦山敷思ハンスラン

或ハ又有ラノスラン成ラノスラン等御書ニ多ク歌ニモ多キテハ也

新古今 忘ナシ世モ越路ノカヘル山イツハタ人ニアハントスラン

今日マデハユソコノミ聞ハカナサノイツ身上ニ成ントスラン

藤原親盛

伊勢

藤原親盛

藤原親盛

無一慙手習卷ニ僧都イデアナカマ大トコタナワレムザンノ法師ニテ  
イムコトノ中ニヤブル戒ハオホカラメド女ノスヂヨツケマヌシ  
リトラズアヤマツ事ナシ  
龍口御消息

一政道ノ法ツカシイワウヤ此事 況乎ノ心也

一ユナワカシテ水ニ入火ヲ切コトケサルカ如シ

火ヲ切トハ鑽燧テ出事も同事ナガラ火燧ニテ打出ヨリハ木ヲ以テ

木ヲ鑽テ火ヲ取心也成實論云爲求道故常勤精進如鑽燧不息疾得

火義疏云鑽燧者鑽木取火之名也論語云鑽燧改火註周書月令有更

火春取榆柳之火夏取棗杏之火季夏取桑柘之火秋取柞櫟之火冬取槐

檀之火一年之中鑽火各異木故曰改火 湯水コ入故事未考

一無下ノ人々也

無下ハ無上ノウラ也ト可心得箒木卷ニオホクハワカ心モミル人ガ

ラオサマリモスベシアマリムゲコウチユルベミハナチタルモ必ヤ

フクラウタキヤウナレドオノツカラカロキカクコソオボヘ侍ルカシ

一三度サヒナミテ散々

河海ニ罪ト出タリ馬 若紫卷ニ宮キコシメツケバサアラ

ウ人々ノオロカナレムンサイナマレン同紫詞ストメノ子タイヌキ

カニガセツルフセエノウコメタリツルモノチトタイトクナチシ

ト思ヘリコノ居タルチトナレイノ心ナシノカ、ルワザチシチイ

ナマル、コソイトコ、コヅキナケレイヅガタヘガマカリヌル

一和泉式部色好ミノ身テウタチヨミテ雨チフラシ

コトハリヤ日本ナレバ照ツカシ降ズハイカト天カ下トハ 本據未考

一能因法師ノ破戒ノ身トソウタチ讀テ雨フラシ

新古今 アマノ河苗代水コセキクダセ天クダリマス神ナラハ神 能因法師

袋草子 範國朝臣コクシテ伊與國ニマカリタリケルニ正月ニリ三四

月マデイカコモ雨フラザリケレバナハシロモセデロツ

イノリサハギケレドカナハザリケレバ守能因歌ニヨテ一宮

コマイラセテ雨イノレト申ケレバマイリタイノリ申ケル歌

天河苗代水〇一神感アリテ三日三夜ヤマズト家集ニ見ヘタ



清輔ノ袋雙紙ニモアリ

一釋尊ニ申上候ハズルツイタシトオボサハ  
痛勞傷末摘花卷ニヤセ給ヘル事イトチシゲニカラボヒナカマノ

ホトナドハイダゲナルマデキヌノウヘマデミユ  
一急キアヤナキ事モヤト是ヘハ走り參テ候

アヤナキハ頼ナキ心由ナキ心無益ノ心無愛ノ心色々アリ  
續古今昨日見テ今日見ヌ程ノ風ノマコアヤナクモロキ峰ノ紅葉ハ

西園寺入道  
前太政大臣

一有御制止不入人オボロケノ強縁ナラデハ難叶候

少少縁少詠常夏卷ニ兵部卿ノミヤナドイタウ心トリメテノ給フ  
ツラフトカオボロケニハアラジトナン人々オハカリ侍スルト申  
給ヘバ

春ノ夜ノ霞ヤ空ニ晴スランオボロケナラヌ月ノサヤケキ

一騷懼ヒソメキ候程ニフタウジムアマタ秘不當人ト有本モアリ

一和泉式部能胤如三次上

○善無畏三藏御書

一壁ハ民カ王ヲシエタケ小河ニ大海ヲ如納

シエタケハシエタケハセバセニナル程ニセタゲト云心歎然ハ責ノ  
字歎伯勻ニ側革切責者追進而取之也逼ノ字モセタゲト讀也

○問註抄

一ツ御房

世話ニ云ワトノソコワシユノ類也異名ニテ被遊時ハ和ノ字也然ハ  
和殿和兒和女ナルベ昔ノ雙紙ニモワスレト書事多シ惣ノ此言ハ

汝ト云心也神書ナドニハ吾ノ字ヲ讀也人ヲ指テ吾子ト云モ此  
義也俗ニチヌメト云ガ如シ徒然草ニ具氏宰相中相ニ達テワスレノ

トハレンホドノコト何事成トモ答申サ、ラソヤトイハレケレ至家  
七卷ニ實盛最後ノ下ニモ先ツ角云フ和殿ハ誰ソトアリ此和字也

彩  
綵  
綺

一辭ツキ音ナンドモ京ナメリニ成ヌレラン

メトマトハ通スル程ニ訛ト云事歎但田舎ヨリ都ヲ指テナマルトモ  
申サレマキ事ナレハ官和滑ニ成タルト云事ナメリト被遊歎

彌可尋々々

○阿佛房御消息

一散ニシ花モ又サキヌ落シ葉モ又成ヌ

詞花コ 大江匡衡ミマカヨシ 又ノトシノ春花ハナヲ見テユメル

新古今コク 君ガ代キミニアフベキ春ハルノオホケレバ散チトモ櫻サクラアレマデゾミン 赤染衛門

月清ツキキヨ 秋深アキフカシ成ナリハテコケル太山ミヤマ哉ナニ花見ハナミシ枝エダコノノミイロツク 土御門右大臣

秋深アキフカシ落オチテ木陰キノカゲノ柴栗シバヤシノコノミチシホル山風ヤマカゼツフク 後京極攝政 太政大臣

一春風ハルカゼモ不ズ代ハ秋アキノケシキモ去年コノトシノ如シ 前大納言為平

古今コノイマ 花ハナナラス風カゼノヤトリハ誰タレカレル我ワレニオシヘニ行ユキテ恨ウラミミン 素性法師

同ドウ 春風ハルカゼハ花ハナノアタリヲモギテ吹心フクココロツカラヤウツロフトミン 藤原好風

同ドウ 秋アキキヌト目メコハサヤカコ見ミヘチドモ風フウノ音ネコソ驚オドロクカレヌル 藤原敏行朝臣

古今コノイマ 何ナニハカキテヌキカケンフナハガマシル秋アキ毎トコ野ノベチウハス 敏行朝臣

一月イツキハ入イテモ又マタ出イテヌ雲クモハ消キテ又マタ來キル 清輔

千載チサイ フケニケル我身ワカミノカゲツ哀アハレナカダフク月ツキハマタモ出イナン

續古今ツグコノイマ 入月イリツキノガヘリテヤミハ照テスハ深世フカヨニメグ影カゲハトイメシ 定修法師

一ミマヤニツナシ

ミトムト音通ネトウス又御馬屋ミウマヤ歎ナガメ

○京權出界抄

一此法門コノホウモン御論ミロン談タン余ヨ不ズ承シラ候コト彼カノ廣學ヒロガク多聞者タブンシャ也ナリカリクハ、ミタクト候コトシ

カハ此方コノカタノ負マツト申マウ被付ヒツケ如何イカニ可カ候コト

カリクノ事コトハ狩カゲテ見ミレハト云イフ事歎コトナガメ又世話ヨセワザニカリクハツト成ナリタリト

云イフ心歎ココロナガメ自然シゼンカタクト有アル之本ノホンモ有アルカコ未イマ考カガハ阻ハム拒馬ケウバノ強ツヨク進スベムチ急キツク

度タビヒカニル字心ジココロ也ナリ源氏ゲンジコアハメ玉タマフト同詞ドウジ也ナリコバム事コト也ナリ

一ウツノ空ウツノソラニ毀クサレル 虚空クウコウ

拾玉シツギ 月星ツキホシモサヤカニ照テスカヒツナシ此世コノヨノ人ヒトノウハノ空ソラ事コト 慈鎮和尚

○妙法尼御前御書

一譬罪ヒトノトミ深フカクキ者モノヲ口クチヲ塞フサテキキンモンシハミ物モノノ口クチヲ開ヒラカスシテカマ

スルカ如ニシ

右ミダリハカキ本ホン也ナリ板本イタホンニハハレ物モノノ口クチヲアケスケンカマスルガ如ニシト有アル

○上野殿御書

一ウツノソラ ヌ、シキ

如上

○藥玉品得意抄

一強カノカマシキ者

抽 森 堂

一后ノ三后ノ位コソナハテモ何カハスベキ

一ハハ大皇太后宮天子ノ祖母也二ニハ皇太后宮天子ノ母也三ニハ

皇后宮也天子ノ妻也三ツ共ニ何モ女官也

○南條殿御返事

一フママロヒ

一臥殿 臥轉 萬葉浦島ノ長歌コソマロヒアニスリシツ、ト有

一心スエカサ

心冷

新古今 小山田ノソハノタツキヨキル鳩ノ友ヨフ聲ノスエキ夕暮 西行

○大聖御書

一千秋ヲ送ニ歳月程ナク過ヤスシ

三體詩ニ世間甲子須更事逢着仙人莫看基晉王質石室山見數童子圖

基與質一物如棗核合之不飢局未終斧柯爛盡既歸無復時人松風卷

コオノ、エサヘアラタメ給ハンホトヤオマナドチニト心ユカヌ御ケ

シキナリ

後撰 チノ、エモクナシモノヲラス君カヨノツキン限ハ打心ミ 命婦清子

一老少不定イツタイツトカ憑ベキ

新古今 末露モトノ卑ヤ世中ノオクレンサキダツクメシナラシ 僧正遍昭

新古今 イツレノ日イツレノ山ノ麓ニテ結煙トナラントスラン 選子内親王

古今 紅葉ハチ風ニ任テ見ルヨリモハカナキ物ハ命也ケリ 大江千里

一親疎同ク走行ニ我身ノ無常チカヘリミス 藤原コレモト

古今 露チナドアマナル物ト思ヒケン我身モ草ニ置ス計ソ 加賀少納言

新古今 ナキ人チ忍フルコトモイツマアソ今日ノ哀ハアスノ我身チ

一東岱前後ノ夕ノ煙昨日モタナヒキ今日モタツ北芭朝暮ノ草ノ露オ

ソレサキダツクメシ也古聖モ是チ春朝 瓶花之人夕散北芭風秋夕

胖月之輩 曉陰ニ東岱之雲昔見人今無唯助三跡之芒屋也兼好モアマ

野ノ露キユル時ナク鳥邊山ノ煙立サラデノミ住ハツルナラヒナ

ヲバイカニ物アハレモナカラン世ハサダメナキコソイミシケレ  
命アル物ヲ見ルニ人ハカリヒサシキハナシカゲロウノ夕マツ夏  
ノセミノ春秋ヲシラヌモ有ルツカシ千年ヲ過ストモ一夜ノ夢ノ心  
地コソセメ北芒野邊ノアハ雪トキエソ夕ハ解脫ノアゲマキチム  
スビ東岱ノ山ノサワラヒノケフリトノボランアシタニハセンメン  
カゲニヤトリ木トナラント源氏狹衣之系圖ニモ書タリ菅三品詩ニ  
烟霞無跡昔誰栖菅三品天  
一王位ニ登トモ死ハ惡趣ニ可歸

新古今 後一條院中宮カクレタマヒテノチ人ノ夢ニ  
故郷ニ行人モカナ告ヤラン知ヌ山路コヒトリマドフト

寶物集 イフナラクナラクノ底コ入スレバ利利モ首陀モカハラザリケリ 高岳親王  
一マシテ貧窮孤獨ノ身チハチズイトハス心ウキ  
發心集ニ過法ノ宿業拙シ今生己ニ感早賤孤獨之報毘沙門天王ハ死  
苦ニハ逢トモ貧苦ニハアハシトノ給ヘリ昔ウツクシキ子チ捨テ  
リケルガオシミテ身ニカキ付ケル歌ニ

命葉 身ニマサル物ナカリケリミトリ子ハ遺方ナク悲ケレトモ 讀人不知

又長雨ノ比鏡チウリケル女ノ鏡ノ裏ニ書付ケル 讀人不知

拾遺 今日ノミト見ルコ涙ノマス鏡ナレシ影チ人ニカタルナ 讀人不知

藤原伊細ノ歌ニモ 讀人不知

後拾遺板間イ 讀人不知

一芭蕉ノ形ヨリハモロシテ尙アヤウシ 清仁親王

古聖モ芭蕉ノ斃キ身設有樂幾程草露ノ危キ命縱有榮不久三體詩

又恐芭蕉不耐秋

一草露ニ似タル命ハアレヒ無ガ如也

新古今 小野宮右大臣ミマカリスト聞テヨメル 權大納言長家

同 玉ノチノ長キタメニヒシ人モ消レハ露ニコトナラヌ哉 前大僧正慈圓

一櫻梅桃李ノ華尙春チマツ事ツキモセス

此櫻梅桃李ノ花トモ春ノ過ルチ不待チ散ト也人間ノ生死ノ數ハ  
具ニ神代卷ニ有

一貴賤男女ノ堺コソ夢マホロシノ如ナレ

詞花 大江公實ニワステレテ讀ル

夕暮ハ待レシ物チ今ハ只行ラン方チ思ヒコソヤレ

相摸

唐ニモ昔王昭君ガ玉宮チ出テ胡國ヘ越テ胡國ノ后トハモテナセト

モ旅ノ床ニハ露ニケケク月ノ光ハ泪ニクレンケル必チヨメル

後拾遺 思キヤ古キ都チ立別レコノ國人ニナランモノトハ

僧都懷秀

新古今 俄ニ都チハナレテトチマカリケル女ニツカハシケル

契チシコトコソサラコナカリシカ兼テ思ヒ別ナラチバ

新古今 ツクセヘマカリケル女ニ月イダシタル扇チツカハストテ

都チハ心チソラニ出ヌ月ニシタヒコ思ヒオコセ

讀人シラス

昔肥後國ニ僧有ケルガ年半開テ後妻チナシ備タリケルフルキ枕ノ

上ニハ僧老ノ契何ヨリ深ク紙ノ衾ノ下ニハ同穴ノ昵言コマヤカナ

リシカハアノドイカト思ケン病チ請タリケル時此妻コウナトケズ

相シレル僧チヨビテ忍テ語ルヤウ若限ニナラバ空カシコ妻ノカタ

ニ告給フナトテ終ニハカナク成ニケリト後ニ妻ニ語ル彼妻則オビ

タ、シク手チタ、キ眼チイカラシ世ニ怖シク聲ノ有カギリオメキサ

ケビテ云様我過去ノ拘留孫佛ノ時ヨリコヤツル菩薩チ妨グントテ

世々生々妻トナリ男ト成テサマノ親敷タバカリテ今迄隨ヘツ、侍

リタリツルチ今日既ニコカシツルチキワザ哉ト云テ齒チク井シ

ハリ胸タ、キ其後遂ニ行方チシラスナシ成ニケリ長明ガ書ニモ見

ヘタリキ私云是コ、ノ取用コアラチ居若輩ノ僧ノタメニカキチシ

可見クオソロシク人毎ニ多シ

一桃李モノイハチトモ昔ノ春コハ似タリ

東坡詩 盡日問花花不語の史記李廣傳賛桃李不言下自成蹊管三品詩

桃李不言春一幾暮朝詠誰謂華不語輕漾激兮影動レ唇アリ花ハ物チ

イハチ居水ニ影ガ移リテ動ケハ至體人ガ居チ動レ物チ云ヤウナト

也輕漾ハカロウウカフト云事也激ハ波ガ疾ク此彼ヘ打行姿也兼好

モ桃李モノイハチハ誰トトモニムカシチカタラシ定家卿モイカニ

心フカキヤウ成歌モソ、口事ヲトヤカクコイヒナシ花鳥ニ物チイ

ハセ雲雪チ櫻ニ見マカヘル歌ハ無上至極ノ躰トハイフベカラスト

カ、ソノハ彼卿ノ心ニモ背ケント思ヒカヘセバ譬喻經カトモ  
 著婆大臣身マカリシ時天下ノ草木聲ヲト、ノヘテドツト鳴コケ  
 ル故ヲトヘハ著婆有シ時ハ萬ノ草木藥性ヲ辨ヘ人民ノ寒熱虛實ヲ  
 助シコ今ヨリ後ハ誰カハ知人アランヤトナシナリト申ケル其  
 上岩木心ナシトハ小宗ヨリナレル事也法花大乘ノ心ハ草木成佛  
 ムチトテテ一草一木一礫一塵各一佛性各一因果ト沙汰スレハ三千  
 依正ノサト、ノ法教モ其一千ハ草木國土ヨリシタタル是本  
 門ハ本國土妙ト云ナルベシ亦三千因果ノ當體ヲ當體ノ蓮花ニ  
 リ此コトハリナシラバ戲論トハ思フベカラス  
 一煙霞アトナクナリスレハスミケン人コソユカシケレ  
 新古今 僧正明雲カクテ後久シク成テ房ナドモイワクラコソヨリ  
 ナキ人ノ跡ヲダコトテキテミレハアラヌモ成ニケル哉  
 同 後朱雀院カクシ給テ後源三位ガモトコツカハシケル  
 アハレ君イカナル野邊ノ煙コテムナシキ空ノ雲ト成ケン  
 弁乳母  
 律師慶運

返々 思へ君モヘン煙ニマカヒナチ立オクシタル春ノカスミチ 源三位  
 新古今 世ノハカナキ事ヲナゲク比ミナノクニ名アル所々カキケ  
 ル繪ヲ見侍テ  
 見人ノ煙ニ成シタヨリ名ツムツマシキ煙ガマノ浦 紫式部  
 一名利ノ心ヲ留メイソイテ淨土ヲ可願  
 白氏文集 朝露貪ニ名利夕陽愛ニ子孫  
 一三界六道皆シカシナカラ我等ガ古キ住家也儘ニ去テ程モナク返ラ  
 ノ事ソカナシキ如常也三界流轉如車廻一庭四生昇沉如已舍宅  
 ○王舍城事  
 一日本國ヲ祈ラバ彌國亡アベシ結句責ノ重カラシ時上一人ヨリ下万  
 民マデモト、リチワカツヤツコトナリホソクウタメシアルベシ  
 モト、リノ事神代ヨリ髪チ一ツニシテカフリチキエホシチキル事  
 禮儀ナルベシ世亂世ニ成上下共ニ髪チイワズサハギテ黎民トナル  
 事歎ホソクウ事左傳ニ若不早圖後君臨膺云云  
 一源濁スレバ流不淨身曲ンバ影ナチカラス

一父母ハ衣ウスケレレ我子然々父母ハ食セサレレ子ハ腹ニアキヌ  
諸佛念ニ衆一衆生不念佛○如常

一僅ノ飯ニ口三口有ク或ハオキキニ分或手入食ニヌ

高祖師御身ハ飢コノツミ寒風チシノギ御弟子衆ニ施シ見苦敷チモ

カヘ見給ハサレコソ佛道耳御心懸給事添シ難有論語ニ子曰君子

食無求飽居無求安亦子曰賢哉回也一簞食一瓢飲在陋巷人不堪

其愛一回也不改其樂賢哉回也兼好モ人ハオノレチツマヤカニシオ

コリチ退クテ財チモタヌ世チムサホラザランヅイミシカレヘキム

カレヨリカレコキ人ノ富ルハマレ也トカケリ誠ニ原憲ハ桑ノトホ

ソ雨モリツルト也道ヲ樂ム者何レモカシ有度事也

一恐シナント思テタトニ法花經ニナラヌ

直造次必於是馬融曰造次急遽ソ如文句十一

○新池抄

一阿防羅刹ニカトヒトクレン

鳩誘詢訓

一名聞利養重クシマメヤカニ道心ハ輕マ

實蜜源氏ニマメ人ノサスガニ心トメテ物語スルコソ符木ニモ

タヒトヘニモノマメヤカニツカナル心ノオモムキ

一宿々ノイナセサ

妨嫌石花不審

○大田殿女房御返事 亦入塞地獄事

一越中ノ立山ノカヘシ

風チ雲ノカヘシナト云ヘハ塞風事也

金葉 アマ雲ノカヘシノ風ノ音セヌハオモハレシトノコノロナルヘシ

一此國ノスワノ御池

信濃ノスワ以外ニ池ノ塞スル處也

一ヤモメ女ノスツノヒユル

世話ニ云ナシハス事

古今 君チノ思ヒコシチノ白山ハイツカハ雪ノキユル時アル

後撰 白山ニ雪フリヌレハ跡絶テ今ハコシチヘ人モカユハス

宗岡大観 讀人シラス

新勅撰 昔ヨリ名ニフツツナル白山ノ雲井ノ雪ハキユル世モナシ 源信明朝臣

一ホロ、ノ雪ニ貴ラレケル

雉ノ鳥ノ事也ツキテ雪中ニ痛鳥也

玉葉 山鳥ノホロノトナク聲聞ハ父カトシ思フ母カトシ思フ

○大田殿女房御返事 亦即身成佛事

堆 堆

○中務左衛門尉御消息

緩敷

一御一言ニテ還テユリヨリトノ、ニル

動

一ヤ、モスレハ

卑賤也 打飼敷

一此身ヲ鬼ノウナカヒトナシ

○聖密房御書

一八丸カホノ、ト、○

一紀ノ、クハツ

紀淑望中納言長谷雄男紀貫之甥也姉妹子曰甥

一源シタガウ

嵯峨天皇 至 源順 梨壺五人内和名集ノ作者也

一臆痛

如三世話云源氏ニハハナシロメルト有オクスル時ニロツヘ目ガクバ

ラレテ必鼻ノ上白クトミユルナリ

○龍口御消息

一政道ノ法ソカシイワウヤ

况ヤノ心也

祖書拾遺和語記下終



141  
2  
199

元祿九年仲春原板

明治十六年八月廿七日再板出板御届

同年九月刻成

定價金四拾錢

故一人

編輯人 圓智院日性

京都府平民

原板人并校正兼  
再板出板人

村上勘兵衛

上京區第廿九組墨華院前之町  
九番戶

